

池田市民文化会館の開館当時から、長年ファンを魅了し続けてきた  
バロックコンサート。 今回の聴きどころは・・・!?  
日本テレマン協会（以降〈テレマン〉）代表の中野順哉さんに、お話をうかがい  
ました。

♪今年のタイトル「バッハ・テレマン・ヘンデル～バロック音楽  
いいとこどり」とは？

チラシにも書かれているとおりですが、「どこかで聴いた」名曲を  
メインにしたプログラムということです。そしてそれは同時に演  
奏者にとっては「とても困難なプログラム」でもあります。よく  
聴かれた曲…もちろん初めてバロック音楽の演奏会に行ってみよ  
うかな？という人にも魅力的な「きっかけ」となるわけですが、  
愛好家の方にも「いろいろな演奏を聴いてきたが、今回は五本の  
指に入るね！」と満足していただかなければいけません。プロと  
してのプライドをかけた瞬間ということになるでしょう。

しかも我々は「関西の室内楽団」という地域性も背負っており  
ますので、そういった期待にもお応えすべく技術性・独自性・  
そしてエンターテインメント性…諸々の要素に留意し、当日、皆様をお迎えしたく思っ  
ております。

一言で言えば「本気印◎」の公演です！



日本テレマン協会代表  
中野順哉さん

♪今エンバコ高田泰治さんが大阪市「咲くやこの花賞」を受賞されたそうですね。  
おめでとうございます。



ありがとうございます。人材を育てるというのも演奏団体の使命の  
一つですが、この賞に関しましては何と言いましても高田個人の可能性  
と努力のたまものです。我々〈テレマン〉がいちばん彼に感謝しなけれ  
ばいけないことだと思います。同時に彼を育んだ関西という土地にも  
心より感謝しております。

これから日本・世界をまたにかけ、関西の誇る偉大な演奏家となっ  
ていくと確信しています。それだけに、私としては今の一瞬一瞬を聞き逃し  
たくなく、長年ご一緒させていただいております池田の皆さんとも、「この  
瞬間の名手」の音と姿を眼と耳の内で共有できればと思っております。

♪お客様にひとことお願いします。

音楽は瞬間瞬間に変化してゆくものだと思っております。またどんな芸術もそうですが…  
受け手がいてこそ成立するものだと思います。言い換えれば、受け手の感覚の変化というも  
のも、音楽を育てる大きな要素。「名曲」というのは、そういった瞬間の連続を生き抜いて  
きたものだと言えるのではないのでしょうか。

名曲をそろえたプログラムを皆さんと今一度「再」共有することで、奏者も育ち、地域も  
活性化し、皆さんの心にも喜びが…そんなハッピーな姿を楽天的にイメージしております。

今の高田泰治、今の浅井咲乃、今の〈テレマン〉——そして今の延原武春。一期一会の  
「創造」を、皆様との共有財産にできれば！ お待ちしております。